

# 伊方町農業支援センターだより

Farmer's Communication Magazine For IKATA Member's

## 早生温州初競り！ (東京大田市場)

11月7日(木)に東京・大田市場など全国の各市場において、JAにしよう産の早生温州の初競りが行われました。今年も温州みかん販売対策のため、愛媛県知事や伊方町副町長をはじめ産地の関係者が初競りの視察や市場関係者との情報交換会を行いました。今年度は初競りの視察に伊方町青年農業者協議会の伊方支部から2名の会員が

同行し、自分たちが生産したみかんの価格が決まる瞬間に立ち会いました。

仲卸やバイヤーの多さを目にし、西宇和という産地がどれだけ期待されているか実感したようです。日の丸みかんの桐箱が競売価格100万円で競り落とされた時には、ご祝儀相場とはいえ令和の時代もみかんへの期待値の表れのように感じました。夏の気象状況により、品質が昨年よりも下回る状況でありましたが、そうした劣悪な流れを一掃するごとく、去年よりも単価が上回る結果になりました。その後の意見交換会でも伊方の良さとして年末年始のみかんの欲しい時期に計画的に出荷ができている強みを評価いただきました。



各産地のみかんを試食するバイヤー



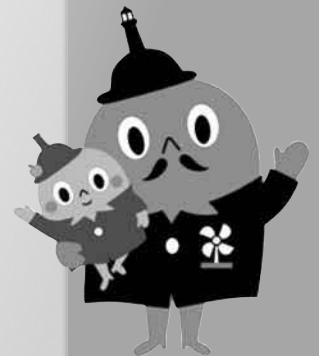
桐箱入りのみかん

### CONTENTS

1. 早生温州初競り
2. 温州の価格推移
3. 地域おこし協力隊活動報告
4. 町見アルバイト事業(町見雇用促進協議会)
5. スマート農業による柑橘栽培の挑戦
6. ラグビーW杯でみかんPR(伊方地区青年農業者協議会)
7. 人・農地プランの実質化に向けて
8. 農業委員会からのお知らせ

伊方町イメージキャラクター

サボリディー

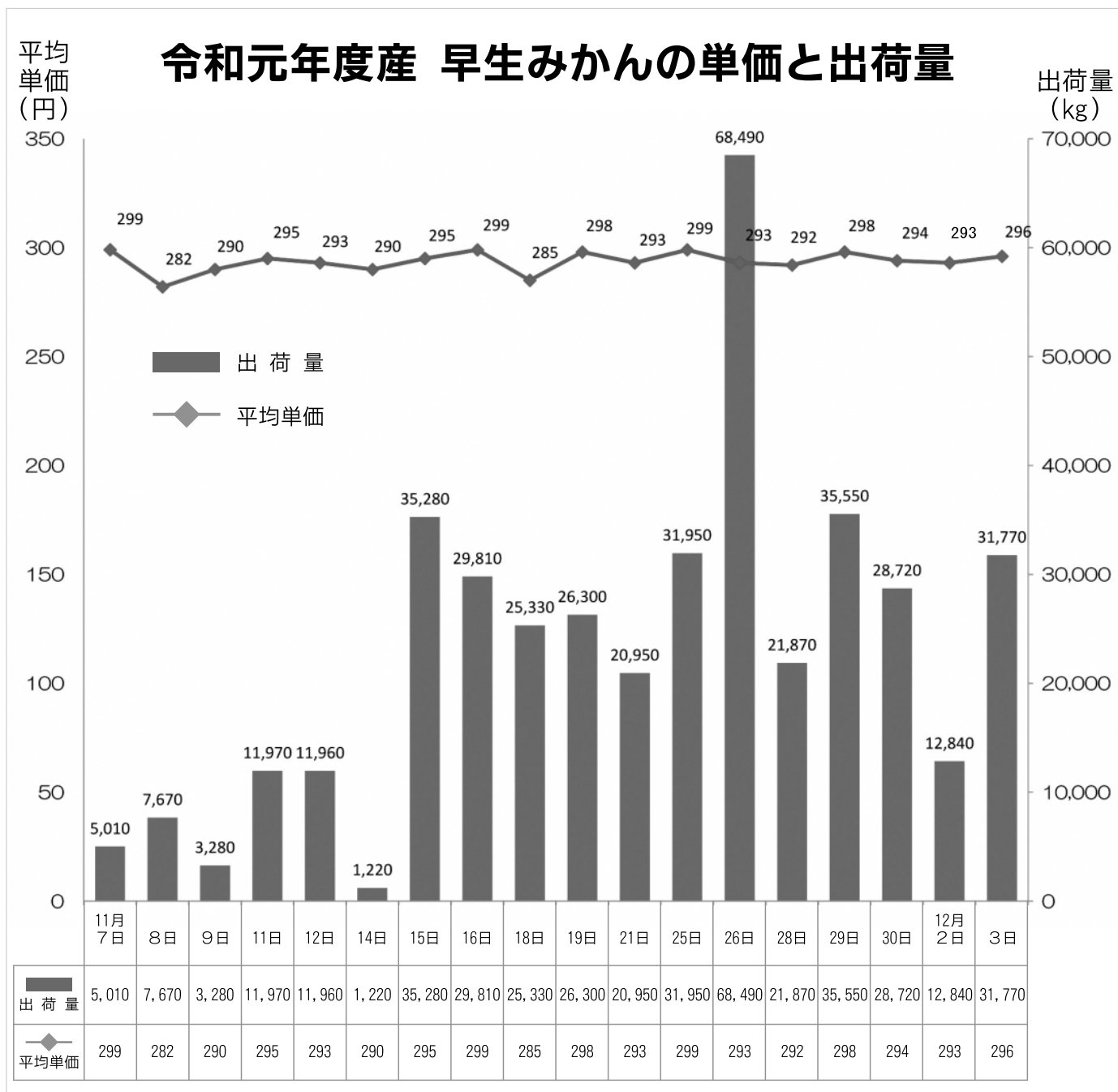


No.28

企画発行 / 伊方町地域担い手育成総合支援協議会(伊方町農業支援センター内)  
〒796-0301 西宇和郡伊方町湊浦 1993-2  
JAにしよう伊方支店 営農管理センター内  
TEL(0894)38-0311 FAX(0894)38-1063

◆ 瀬戸・三崎地域の受付窓口 ◆  
瀬戸支所地域住民室 TEL(0894)52-0111  
三崎支所地域住民室 TEL(0894)54-1111

# 早生みかんの取引価格好調！！



この表は、伊方共選の各取引市場（11/7～12/3）での早生10k（優・良・良々）の平均単価と出荷量を示したものです。着色遅れで、出荷は遅れていますが、品質内容については心配していましたが平年並みに回復しています。令和元年度産は、前年度と同じ好調なスタートを切り順調に推移しています。



## おおくぼ、農業女子はじめました。

10月4日、明治大学農学部食科環境政策学科農業マネジメント論研究室の学生さんたちに講義をさせていただきました。

「農業女子はじめました」というテーマで、愛媛県の主要一次産業の柑橘についてのPRや、何故農業をすることを選んだのか？という話をしました。

おいしいみかんのできる条件である3つの太陽や、高齢化問題、鳥獣害問題など、柑橘農業の現状についても、みなさん真剣に話を聞いてくれました。

当日は、伊方町から持って行った柑橘ジュースの飲み比べや極早生みかんも食べ、それぞれの味についての意見交換もしました。

私自身が地域おこし協力隊で移住者であることから、移住する時の気持ちや、移住後の生活の変化など、移住者の目線で地方の魅力を伝えられたかと思えます。

「伊方町へ行ってみたい」と言ってくれる学生さんもいて、今回の講義が佐田岬を訪れるきっかけになってくれればと感じます。



講義中のようす

最後はみかんとジュースとともに記念撮影🍊



# 町見地区アルバイト事業

## ～農家の応援団が全国各地から来町～

町見地区では今年度から繁忙期の労働力を補うため、アルバイト事業を実施しています。伊方町内では三崎地区に続いての実施となります。町見地区内の若手農家や有志が町見雇用促進協議会を立ち上げ、収穫アルバイトの女性6名を募集しました。初めての募集で人数を確保できるか心配していましたが、全国から20名程の応募があり、無事予定人数を確保でき安心していきます。

アルバイトは11月中旬から順次来町し、受入農家さんのもとで収穫作業を行っています。町見地区では中晩柑も栽培していますので、3名程は2月末頃まで作業に従事する予定です。11月21日には受入農家とアルバイトとの交流会も行われ、親睦を深めています。

受け入れにあたっては、二見地区の空き家を活用しアルバイトの宿舎を確保したり、必要物品を揃えたりと苦労もありますが、労働力確保のため今後も継続していききたいとのこと。

アルバイトは収穫時期で非常に忙しい時の農家の力強い応援団です。全国各地から多くの方に来ていただき、伊方町の良さを少しでも知って帰っていただければと思います。



収穫をするアルバイト



協議会員とアルバイトのみなさん

# スマート農業による柑橘栽培の挑戦

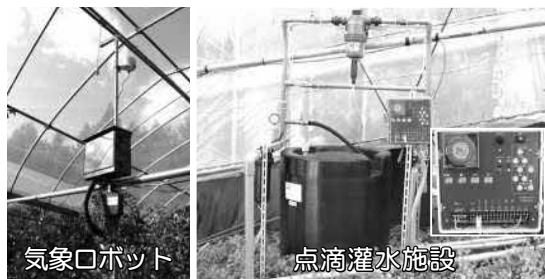
## スマート農業とは

技術発展の著しいロボット技術やAI (artificial intelligence: 人工知能)・IoT (Internet of Things: モノのインターネット) を活用して、省力化や高品質生産を推進する新たな農業のことです。

## 西宇和で実証している技術体系の概要

### 1. 気象ロボットで圃場をモニタリング

点滴灌水を導入した施設甘平園で、①気温②湿度③日射量④土壌水分⑤土壌EC⑥雨量などのセンサーや⑦カメラを取り付けた気象ロボットを設置して、圃場環境をモニタリングしながら高品質な果実生産をしています。それらのデータは、スマートフォンやパソコンで確認することができます。



気象ロボット

点滴灌水施設

### 2. アシストスーツで軽労働化

作業時の腰への負担を軽減するために、腰補助用「マッスルスーツ」の柑橘現場（肥料やコンテナの運搬等）での活用について実証しています。このアシストスーツは介護現場や工場、物流倉庫、建設現場では使用実績があります。



アシストスーツ

### 3. AI選果機で庭先選果を省略化

農家は収穫作業後に選果作業を夜遅くまで行います。これは農家にとってかなりの負担です。そこで、農家での選果作業を省略して、山採りした果実をそのまま共同選果場にもっていくことができるシステムの構築を目指しています。

庭先選果をなくすために、果実の①腐敗②生傷③浮き皮④格外等の人手で除去する果実をAI選果で選別できるように目指しています。

庭先選果を省略した時間を、規模拡大や高品質栽培に充てることができます。



試作版AI選果機

AI判別	
内部センサー	外観センサー
③糖酸度測定 浮皮判別	②生傷・腐敗 ①傷・外観判定 浮皮判別

### 4. 経営・栽培管理の「見える化」

年間の栽培履歴(防除・施肥・摘果・収穫などの作業記録)、気象ロボットのモニタリングデータ、果実の品質データ、出荷データなどを総合的に入力して、判断できるようにします。例えば、黒点病の果実が発生したときには、どの時期の雨量、防除が原因であるのかを判断して、次年度の栽培管理に活かせるようになります。



データの蓄積

<b>目標</b>	10a当たり収量：2～3割向上 10a当たり労働時間：2割削減
<b>実証圃場</b>	施設甘平3園地（伊方町）、温州5園地（八幡浜市）
<b>実証主体</b>	JAにしうわスマート農業研究会（実証農家8人）
<b>連携機関</b>	伊方町、八幡浜市、JAにしうわ、ICT企業、県



# ラグビーW杯でみかんPR “伊方みかんフェア”

ラグビーW杯が開幕した翌日の9月21日に、東京浅草のまるごとにつぼん前広場で、伊方みかんフェアを開催しました。主催は伊方地区青年農業者協議会で、昨年度から準備を進め東大みかん愛好会や伊方共選の協力を得て開催することができました。W杯の開幕したこの時期は温州みかんの最盛期ではないことから、ジュースでのPRとし、昨年の12月に会員が収穫したみかん1トンを搾汁し準備しました。フェアでは、みかん蛇口を使用してジュースの無料配布を行い、約4時間で2,000人の方に試飲していただきました。浅草で行ったこともあり、外国人観光客も多く今回のラグビーW杯で来られた方も目につきました。

同時に行ったアンケートでは、西宇和みかん(伊方みかん)の知名度は32%とっていたよりも低く、これからも継続してPRが必要だと感じました。来年は東京オリンピックでのみかんPRを目標にプロジェクトを進めていますので、少しでも伊方のみかんの知名度向上を図りたいと思います。



みかんジュースを注ぐラグビー観光客



会員と東大みかん愛好会のみなさん

# 人・農地プランの 実質化に向けて



人・農地プランとは、農業者が話し合いに基づき、地域における農業において中心的な役割を果たすことが見込まれる農業者（中心経営体）、地域における農業の将来の在り方などを明確化し、公表されるものです。伊方町においては、町内を15の地区に分け人・農地プランを作成しており、全55集落をカバーしています。

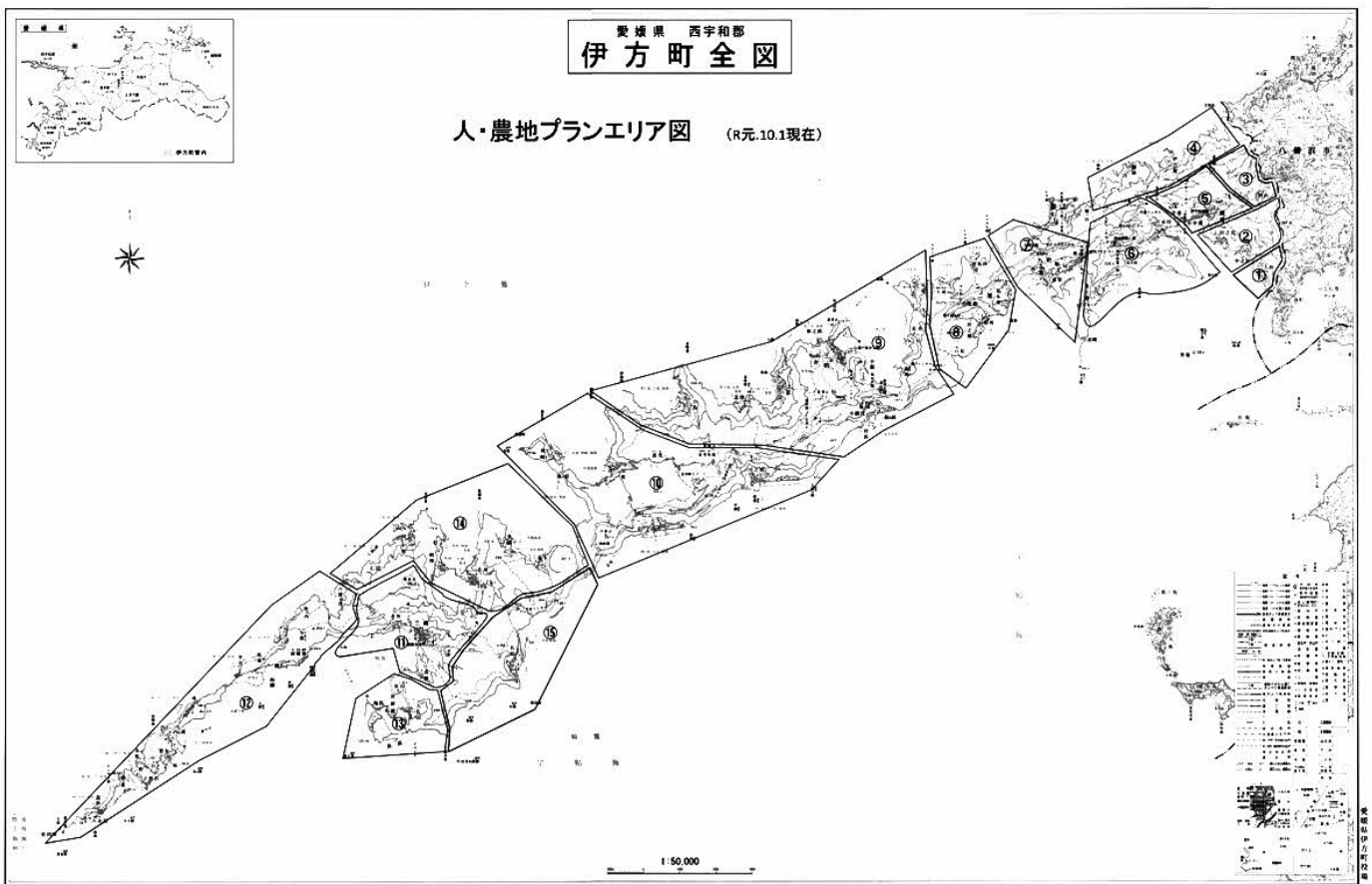
このたび国の事業見直しの中で、プランを真に地域の話し合いに基づくものにする観点から、アンケートや地図を活用し、今後農地利用を担う経営体への農地の集約化に関する将来方針の作成につなげていくことが示されました。

伊方町においても、人・農地プランの実質化に向け、右記の事業に取り組んでいきます。

アンケートについては、12月中旬より農業者（農地所有者）の皆さんへ順次発送いたします。アンケートが到着したら、必要事項を記入の上ご返信をお願いします。地域農業の将来方針の作成に係る大切なアンケートですので、ご協力をよろしくお願いいたします。

## 実質化の要件

- ①アンケートの実施（5年～10年後の農地利用に関するアンケート調査を行います。）
- ②地図による現況把握（農業者の年齢階層別の就農や後継者の確保の状況を地図上に落とし込みます。）
- ③中心経営体への農地の集約化に関する将来方針の作成（地域での徹底した話し合いにより、5年～10年後に農地利用を担う中心経営体に関する方針を定めます。）



豊かな老後に備えて

平成30年12月現在

# 農 業 者 年 金

に加入しましょう！

## 1 政策支援を受けるとこんなにお得！

20歳から40年間単純に積み立てた場合

$$2\text{万円} \times 12\text{ヶ月} \times 40\text{年間} = 960\text{万円}$$

20歳

60歳



以下の要件を満たせば、毎月の積立2万円が1万円の自己負担で済みます！

216万円も  
お得！

国庫補助があるため960万円の積立が **744万円** の自己負担で実現

国庫補助(1万円)	国庫補助(6千円)	保険料(自己負担) 2万円
保険料(自己負担) 1万円	保険料(自己負担) 1万4千円	
20歳	35歳	40歳

**運用益**  
(保険料と国庫補助分を基金が運用)  
H20~29の運用利回りの平均は3.41%  
運用期間:20歳~65歳

### 支援要件と月額保険料

※支援期間は通算で最長20年間(うち35歳以上の期間は最長10年間)

39歳までに加入し、農業所得が900万円以下で、以下のいずれかに該当する方は、通常2万円の保険料のところ、実際支払う保険料は、それぞれ以下のとおりとなります。

- (1) 認定農業者で青色申告している者
- (2) 認定就農者で青色申告している者
- (3) (1)又は(2)の者と家族経営協定を結んで経営参画している配偶者・後継者
- (4) 認定農業者又は青色申告者で3年以内に(1)になることを約束した者 → 1万4千円(35歳未満)、1万6千円(35歳以上)
- (5) 35歳まで(25歳未満は10年以内)に(1)になることを約束した後継者 → 1万4千円(35歳未満)

## 2 政策支援を受けない場合でも、納付された保険料は、農業者年金基金が安全性と一定の利回りの確保を目指して運用します。

※H20~29の運用利回りの平均は3.41%です。ただし、これは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。運用結果により、年金原資が保険料納付総額(元本)を下回る可能性もあります。

## 3 年間60日以上農業に従事し、60歳未満の国民年金第1号被保険者(国民年金の保険料納付免除者は除く)であれば、誰でも加入できます。

## 4 保険料は月額2万円~6万7千円の間で自由に決めることができます。

## 5 税制面で大きな優遇措置があります。※世帯員全員の保険料が社会保険料控除の対象となります。

農業者年金のご相談については、お近くの農業委員会かJAまたは農業者年金基金にお問い合わせください。

【お問い合わせ先】独立行政法人農業者年金基金 専門相談員 (TEL:03-3502-3199)